◆表土の流出が止まらない

近年、異常気象が常態化して世界中に干ばつと豪雨をもたらしています。既存の古い墓地は排水が不十分なこともあり、墓地の地表も土砂の流失が止まりません。既設の排水設備では集中豪雨の時には排水溝を雨水があふれ出し通路や階段が川のようになるのが最近の状況です。（写真1）この影響で通路がU字型に彫れて歩行もままなりません。（写真3）（写真5）流土対策に毎年土砂の持ち込みと安定化処理を必要な箇所から実施していますが、高所に土砂を上げる必要があるためクレーンの利用ができる範囲は容易ですが、その他は人力で上げる以外方法がありません。そのため平地で道路修理に比べて3倍以上の経費がかかります。（写真4）「り地区」（旧名号塔西側）では地下水の湧出箇所があり付近の方は大層難儀されていると思われます。（写真2）しかし、複雑な地下水系を不用意にいじると大規模な流土の危険性があります。抜本的な改善は予算の関係上、難しいため、墓地の移転をお願いする以外方法がありません。

写真1

写真2

写真3

写真4

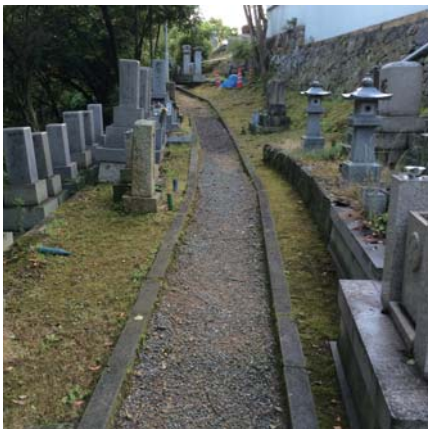

写真5

写真6

◆大型樹木の倒木とその処理

次に植生ですが、温暖化の影響と害虫の影響だと思われますが、大木の立ち枯れが墓地の各処に見られます。強風などにより倒木が起こりつつあります。（写真7）（写真9）今までの経験上。不用意に切ると、植生だけで持たせていた土塁壁が、一挙に崩れる危険性があります。（写真6）

墓地では多くの場合、樹木の下には墓石があります。そのため墓石の一時撤去か十分な墓石保護の養生をした上で、伐採木の周りに足場を組み、上部から少しずつ切出して行く必要があります。しかも、クレーンなどの重機を持ち込めないため総て手作業となり費用が跳ね上がります。（写真8）さらに切出した材木はトラックで数台分になり、産廃の費用がままなりません。今までの施工経験では30㎝径の大木を伐採するのに50万円を超える工費を必要としました。小さい灌木の伐採は手間も掛からず容易ですが、大木の伐採は、倒壊させその後で処理したほうがコスト的に有利である場合があります

写真7

写真8

写真9